

■ グリーンツール

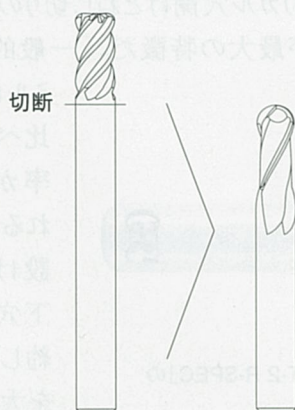
完全リサイクル目指す 金銀銅鉄

再研削きっかけに
再製造を提案

グリーンツール(岡山県笠岡市、藤原雅義社長)は、切削工具の再研削を主な事業としながら、再研削できなくなった工具を活用し再製造を提案する。再製造した工具を再研削して使えば、常に新品を使う場合に比べ、廃棄する金属材料を大幅に削減できる。最終的に廃材となった工具も同社が買い取る。守本英司開発課長は「将来的には、廃材をわが社のオリジナル工具の母材として生まれ変わらせ、完全リサイクルの実現を目指している」と語る。

資源を循環させる

グリーンツールの売上の8割は再研削で、残る2割が製造だ。製造は、オリジナル工具「GTシリーズ」や特注工具の新品製造、摩耗した工具のシャンクを生かして新たな刃にする再製造、他メーカーのOEM(相手先ブランドでの製造)からなる。さらには、廃材となった工具を買い取り、専門業者を通じて再利用を図る。守本課長は「まだ実現できていないが、将来的には自社製品の母材にしたい」と話す。



再製造で生まれ変わる工具のイメージ



「工具の完全リサイクルが最終目標」と話す守本英司課長

主力事業の再研削の受託を入口として、再製造や新品販売につなげるのが、ビジネスモデルの基本形だ。工具の完全リサイクルを実現し、環境に配慮した持続的な発展を図る。「資源が豊かとはいえない国柄と、輸入先を中国などに頼る地政学的リスクから、資源を国内で循環させることが大事」と力を込める。

また、自社の消費電力削減にも努める。「工具研削盤をはじめとする設備の消費電力が一番大きい。油温調整機やミストコレクターなど周辺機器も多い。加工能率を上げることで稼働時間を短縮したり、省エネタイプの設備に更新することも検討している」と言う。

環境対応の機運づくりを

「再製造した工具は、新品と同等の性能を持ちながらコストは3割削減できることもある」と語る守本課長。再製造のメリットをPRする一方、「再製造は単品が多く、汎用機で加工するため採算性が悪い」と本音も。「ある程度まとまった数をCNC機で製造するのが理想」と話す。

「小径工具やダイヤモンド工具を再研削できれば、再研削の提案の幅も広がるが、高価な設備がネック」と語る。大手メーカーとタイアップして再研削を引き受けるのも手だが、実現は難しい。「企業レベルで環境対応を進めるには限界がある。費用や技術面を含め、業界や国レベルの推進が必要だろう」と語る。

(松川裕希)